

## ★最新介護医療情報★

### コロナ飲み薬、米 FDA 諮問委が緊急使用を議論へ 年内にも承認か (朝日新聞社 2021.10.15 配信)

米製薬大手メルクが開発中の**新型コロナウイルスの飲み薬「モルヌピラビル」**について、米食品医薬品局(FDA)は 14 日、諮問委員会を 11 月 30 日に開き、**緊急使用許可を出すべきか検討する**と公表した。メルクによると、認められれば新型コロナ向けの飲み薬として初めてとなる。**早ければ年内にも承認される可能性がある。**

メルクは今月、米国や日本など世界各国で実施した臨床試験の中間結果を公表。**モルヌピラビルを 12 時間おきに 5 日間、計 10 回服用したところ、軽症や中等症の患者が入院するリスクが半減したという。**同社は 11 日、FDA に緊急使用許可を申請したと発表した。

FDA の諮問委ではメルクの担当者が臨床試験のデータについて説明する予定で、その議論は公開される。FDA の担当者は「FDA が緊急使用許可を出すかどうかを決めるため、公開で議論することによって、科学的なデータや情報を明確に理解できる」とする声明を出した。

米政府はすでに 170 万人分の購入契約を結んでいるほか、日本政府も調達する方向で交渉している。

### i P S から作った細胞に特定の遺伝子導入、脊髄損傷マウスの回復促す …慶大などのチーム (読売新聞社 2021.10.15 配信)

**i P S 細胞(人工多能性幹細胞)から作った細胞に特定の遺伝子を導入し、脊髄を損傷したマウスに移植すると治療効果が高まったと、慶大などの研究チームが発表した。脊髄損傷の再生医療の改善につながる可能性がある。**米科学誌ステム・セル・リポーツに 15 日、論文が掲載される。

同大の岡野栄之教授(生理学)や中村雅也教授(整形外科)らは、人の i P S 細胞を神経の元になる細胞に変化させ、神経の再生を促す遺伝子「L O T U S」を組み込んだ。その上で、脊髄損傷後 9 日目のマウスの損傷部に、改変した細胞を移植した。その結果、**改変していない細胞を移植したマウスに比べ、神経の突起がより長く伸び、足の運動機能の回復も高まったことが確認できたという。**

岡野教授らは、i P S 細胞を利用した脊髄損傷の再生医療を、近く臨床研究で実施する計画だ。今回の研究は次世代の治療法になる可能性がある。岡野教授は「遺伝子治療と再生医療の組み合わせで効果を高められた。将来的に新たな治療方法として活用したい」と話している。

中島欽一・九州大教授(幹細胞生物学)の話「**従来の手法を上回る効果が得られたことは非常に重要。他の有用な方法と組み合わせれば、さらなる効果増大が期待できる。**」

